

ごあんない その他各種イベントはページ右下のQRコードからご覧になれます。

きかくてん 企画展 「節足動物 ~昆虫か昆虫以外か~」

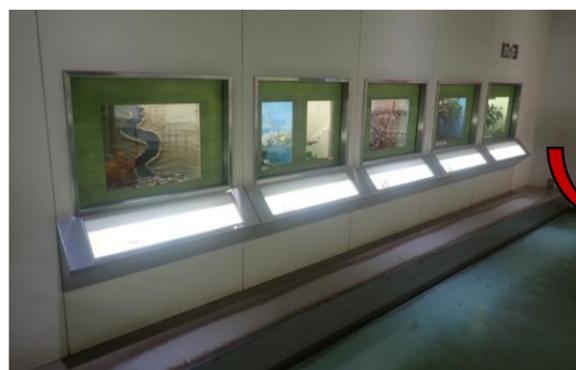


- 期間：4/18(土)~5/10(日)
※4/22(水)、5/7(木)は休館。
- 会場：こんちゅう館 多目的ホール
- 内容：クモやサソリ・ムカデ・ダンゴムシ・甲殻類など、昆虫以外の「ムシ」との違いや共通点から、昆虫がどんな生きものか知ろう！！

こんちゅう館ウラ話 展示の裏側ってどうなってるの？

おもて 表 (お客様が見る側)

うら 裏 (展示ガラスのむこう側)



熊眸 蓋 開閉して、虫の世話をします。熱くならないLEDです。



底じき 容器の高さを調節します。

展示ケース 硬くて丈夫な素材 (FRP) でできています。

展示室と飼育室の間は、展示ガラス(厚さ1cmのガラス)で区切られています。それぞれの窓の前に昆虫を展示するためのケースが置かれており、窓越しにお客様が昆虫の様子を観察できるようになっています。また、飼育担当者は裏から展示昆虫のお世話をできるようになっています。このような展示の仕方を、たくさんの窓が並ぶ様子を汽車に見立て、「汽車窓展示」と呼びます。

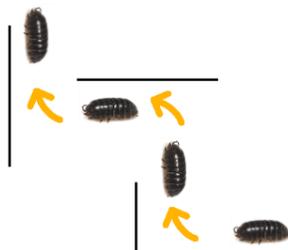
こんちゅう館では定期的に、特別に展示の裏側を見ることができるバックヤードガイド「飼育室ツアー」をやっています。機会があればぜひ参加してみてください。(逸見)

こんちゅう館 News

- Topic
- ・表紙 : 企画展のスター オカダンゴムシ
 - ・2ページ: 職員の推し虫 ナナホシキンカメムシ
 - ・3ページ: 虫の飼い方 ハナカマキリ
 - ・4ページ: 企画展情報・こんちゅう館ウラ話

きかくてん 企画展のスター 企画展 「節足動物」 ~昆虫か昆虫以外か!~

交替性転向反応
ダンゴムシは壁にぶつかると右・左・右・左と交互に曲がって歩いていきます。このことを「交替性転向反応」と呼びます。迷路を作って行動を観察してみましよう!



ある 歩くダンゴムシ



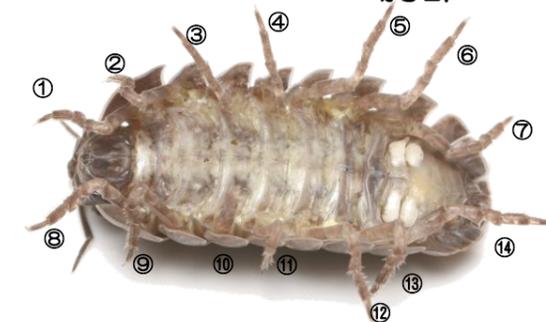
とうぶ 頭部

きょうぶ 胸部

ふくぶ 腹部



丸まった ダンゴムシ



うらがわ 裏側

● ダンゴムシって昆虫なの？

体は昆虫と同じく頭部、胸部、腹部と大きく3つに分けられます。あしは胸部に全部で7対14本! ムシとつくけど昆虫ではありません。エビやカニに近い仲間です。

オカダンゴムシ Armadillidium vulgare

ワラジムシ目 オカダンゴムシ科

誰もが小さいころに、ダンゴムシを丸めて遊んだことがあるのではないのでしょうか。小さな子どもにとって、手ごろな大きさ、硬さで、動きが遅く捕まえやすい。また、植木鉢や落ち葉の下など都市部でも身近に見られ、親しみやすい生きものです。身近に見られるダンゴムシは、ほとんどがこのオカダンゴムシです。乾いた砂をしいたケースに、毎日湿らせたスポンジを入れて給水を行い、落ち葉をエサとして入れると簡単に飼育できます。(藤井)



イベント情報は こちらから

ナナホシキンカメムシ *Calliphara excellens*

カメムシ目 キンカメムシ科

こんちゅう館職員の“押し虫”を紹介するコーナー。今回の“押し虫”はナナホシキンカメムシです。(松尾)



南西諸島に生息。オオバギの葉の汁などを吸います。(×5倍)

お押しポイント

1. 美しい色彩

体は緑がかった金色に輝き、一目でわかる美しさ。さら細かく見ると、脚がメタリックな赤や青に彩られ、まるで生きている宝飾品のようです。

2. 割と大きい!?

肉眼でしっかり確認できるサイズ。体長16mm~20mm。日本産陸生(陸上で生活する)カメムシの多くは体長15mm前後かそれ以下です。



3. 求愛ダンス

体を震わせたり、ステップを踏んだりして華麗な求愛ダンスを行います。▲求愛ダンス動画はこちら



(実物大)

虫の飼い方 ハナカマキリ

こんちゅう館ではハナカマキリの成虫と幼虫を一年中展示しています。今回はこんちゅう館でのハナカマキリの飼い方をご紹介します。(久我)

エサ

生きた昆虫を与えます。カマキリが前あしで捕まえられる大きさのエサを用意します。



ショウジョウバエ (1~3齢幼虫のエサ)



フタホシコオロギ (4齢幼虫~成虫のエサ)



チョウやガなども◎



レッドローチ (4齢幼虫~成虫のエサ)

幼虫の世話



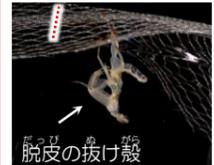
1~3齢幼虫までは、大きなケースでまとめて飼います。共食いを防ぐため、ケース内にエサのショウジョウバエが常にいるようにします。

大きな木製のケース (20頭ほどの幼虫を飼育)

4齢幼虫からはフタ付きのプラスチック製容器などで個別に飼います。2~3日に1回、エサやりと霧吹きを行います。

エサやり・霧吹き用の穴 (スポンジでふさぐ)

水切りネット (脱皮時の足場)



メスの終齢幼虫は高さのあるケースで飼います。(低いケースでは、羽化に失敗することがあります。)



成虫の世話

日々の世話(エサやり・霧吹き)は幼虫と同じです。

羽化して1か月以上が経過したら、交尾させます。共食いを防ぐため、しっかりとエサを与えてからオスとメスを同じケースに入れます。



オスがメスの上に乗る、腹部の先をつなげたら交尾は成功です。

オスがメスから離れたら、再び個別で飼います。

卵の世話

メスがケースの壁に卵包*を産みつけたら手でつまみはがし、容器に貼って管理します。



*卵包... 卵をスポンジ状の物質で包んだもの

